

リサーチグループ登録届出書

平成26年7月14日

1. リサーチグループの概要

リサーチグループの名称 人と音の情報学リサーチグループ

リサーチグループの名称(英語) Research Group for Sound and People with Computing

分野 (1.人文系、2.理工系、3.生物系、4.複合系) 4

設置開始時期 2014 年 7 月

設置終了時期 2018 年 3 月

2. リサーチグループ代表者

所属・職名 図書館情報メディア系・助教

氏 名 寺澤洋子

氏名(英語) Hiroko Terasawa

3. 連絡先

所属・職名 図書館情報メディア系・助教

氏 名 寺澤洋子

電 話 029-859-1302

F A X _____

E - m a i l terasawa@slis.tsukuba.ac.jp

4. 担当部局 (当該リサーチグループの運営等を管理する部局名)

図書館情報メディア系

5. 構成員一覧について

氏名	所属部局	職名	専門	学位	役割分担
寺澤洋子	図書館情報メディア系	助教	音響学	PhD	代表者 音・音楽を通じたコミュニケーション, およびそれを可能にする音表現の研究
松原正樹	図書館情報メディア系	特任助教	認知科学	博士	分担者 音楽における学習, 身体知の研究
森嶋厚行	図書館情報メディア系	教授	情報学	博士	分担者 人の社会的な行動に関する研究
平賀譲	図書館情報メディア系	教授	音楽情報処理	修士	分担者 音楽構造の認知プロセスと音楽理論の研究

共通様式③

6. 科研費細目 番号	主なものから順番に3つまで記載してください。		1104 (マルチメディア・データベース)	1201 (認知科学)	3003 (芸術一般)
7. キーワード (5つまで)	音響・音楽	情報	社会	認知知覚	身体
8. キーワード (英語)	Sound and Music	Information	Society	Mind	Body
9. 研究グループ HP	URL を記載してください。	http://slis.tsukuba.ac.jp/lspc/resgroup/index.html			
10. 研究グループ概要 (100字程度)					
音は人々の間を取り持つメディアであり、人間の心と身体、コミュニティや社会に働きかける作用がある。本研究グループでは、「音」を通じた人の振る舞いとコミュニケーションのあり方について先端的な情報処理技術を用いた研究を行い、音による表現やデザインへの応用を検討する。					
11. 研究グループ概要(英語)					
Sound is a powerful medium for human communication, affecting our mind, body, community and society. With information technologies, we research human behavior and communication with sounds, and investigate application for the sonic expressions and designs.					
12. 設置の目的及び必要性					
国外では情報科学・認知科学と音楽の学際研究のセンターが複数あるものの、日本国内・アジア圏に同等の研究センターがなく、科研費などでのプレゼンスが薄い。近年、音楽情報科学の研究者がつくば研究学園都市（筑波大学、産総研等）に集結しつつあり、これらの人的ネットワークを生かしつつアジア圏での音楽情報科学の拠点形成を目指す。将来的な音楽情報科学の学位プログラムの策定、研究センターの設立を視野に入れながら研究および学会活動を行う。国内では筑波技術大学、東京芸術大学、国立音楽大学、日本大学芸術学部および文理学部の研究者らと連携を行っている。海外では韓国梨花大学、台湾精華大学、アムステルダム大学、ビーレフェルト大学等の研究者らとの研究交流を進めていく。					

13.研究計画

これまで、寺澤、松原、平賀は、音と音楽、知覚、行動に関する研究を進めてきた。森嶋はクラウドソーシングをはじめとした、人間のネットワークを構築し、行動を喚起するシステムの研究を行ってきた。これらのバックグラウンドを結集し、高度な情報技術を取り入れた音楽情報科学研究を立ち上げる。本年度は定期的なミーティングを重ねて、魅力的な新規研究テーマを開拓する。来年度は、そのテーマに即した研究を進めて研究発表を行い、再来年度以降の外部予算獲得、国際会議誘致に向けた準備を行う。また、国内学会・研究会、およびコロキウム講演は随時招致する。

14. 研究・教育に期待される効果（箇条書き）

- 音・音楽といった親しみやすいメディアを通じて、学際的研究に目を向けさせる
- 学会の開催によって、国内外の先端研究を身近に感じさせる
- 研究予算獲得およびその活用によって、学生が研究に没頭できる経済的状況を作る